

## チェコにおける社会主义時代のパネル住宅地の地域価値の形成 —オストラヴァ工業地域を事例として—

主査 田中 由乃<sup>\*1</sup>

委員 神吉 紀世子<sup>\*2</sup>, ヤン ポリーフカ<sup>\*3</sup>, ヨセフ モルクス<sup>\*4</sup>, ミロスラヴア フィシャロヴァー<sup>\*5</sup>, 栗原幸子<sup>\*6</sup>

チェコの社会主义時代の大規模住宅開発地の一つであるオストラヴァ市 Ostrava-Jih 地区について、関係者へのインタビュー、アーカイブ資料調査、現地踏査を通じて、現在何が地域の価値として認識されているのかを明らかにすることによって、これまで一般的に評価が高かったとは言い難い社会主义時代の住宅開発地の再価値化を行った。その結果、居住地域の周辺に川や森などの自然が多いことに加え、日常生活に必要な商業施設、公共施設が揃っていることが高く評価されていた一方、近年の社会的立場の弱い人々の急増や空気の悪さが指摘された。更に、地域環境改善のために自ら行動を起こしている住民がいることが明らかになった。

キーワード：1) チェコ, 2) オストラヴァ, 3) パネル住宅, 4) 社会主義, 5) 工業都市,  
6) 住宅地, 7) 価値, 8) インタビュー, 9) 住民, 10) 居住史

### ACCUMULATION OF VALUES IN THE HOUSING ESTATES DEVELOPED IN SOCIALIST ERA IN CZECH REPUBLIC -Case Study on the Industrial City, Ostrava-

Ch. Yuno Tanaka

Mem. Kiyoko Kanki, Jan Polivka, Josef Morkus, Miroslava Fisarova, Sachiko Kurihara

In this research, the present values of the Ostrava-Jih, one of the large housing estates developed in socialist era in Czech are clarified by the interviews with the administration and inhabitants, document analysis, and field research. As a result, nature around the housing area, the accessibility of facilities for shopping and public services and the places with their personal good experiences are evaluated. The issue of housings for socially disadvantaged people and air pollution are important concerns for the interviewees. In addition, there were some actions by inhabitants to improving their surroundings by themselves.

#### 1. 研究の背景と目的

チェコ共和国は旧社会主义国（社会主义時代はチェコスロバキア）であり、社会主义体制下において国内各地でパネラークと呼ばれるパネル工法によるプレハブ住宅が建設された（写真 1-1）。パネラークは特定のモジュールによって設計されるなど、住宅水準の統一が目指された。そのため、社会主义時代の住宅開発地に対する、画一的である、無個性であるといったイメージも強い。しかし、民主化後もこのような量産型のパネル住宅の殆どで構造や室内の状態が十分良好であったことなど<sup>[文1]</sup>から、現在でも、人口の約三分の一が社会主义時代に形成されたパネル住宅で生活している。更に、地域に関わる主体が住環境の更新に関わり、住宅開発地をより魅力ある地域にしようと試みていることも報告されている<sup>[文2]</sup>。



写真 1-1 パネラークの建ち並ぶ住宅開発地  
(プラハ市 (2015), 本人撮影)

既に開発から数十年が経過しているこれらの地域は、時間の経過に伴い、地域独自の歴史や魅力を生み出してきたが、その中には、今まで顧みられてこなかった部分が数多く存在していると考えられる。それらを改めて拾い上げることは、いま、物理的老朽化を迎える地域の再生を考える上で、何を地域の魅力として活かしていくのかを明らかにすることであり、重要な意味を持つと言える。また、これまで積極的に評価されてこなかった、あるいはマイナスイメージを抱えてきた地域は世界中に存在する。そのような地域がこれまでの過去を引き受けた上で、地域それぞれの歴史や魅力を建設的に評価することにより、独自の価値と将来性のある地域として多数の人々が認識することは、そこに暮らす住民の地域への愛着や誇りにつながるものであり、人々の日々の暮らしをより豊かにしうるものであると考える。

そこで本研究では、地域開発に関わる資料分析と、地域に関わる主体、すなわち、行政、企業、住民へのインタビューを主に用いて、社会主义という現在とは異なる体制下で開発された地域が、その後の政治・経済的転換

\*1 京都大学大学院工学研究科 博士後期課程

\*2 TU Dortmund University, Assistant Professor

\*3 Municipal district Prague 11, Head of Department of Urban Planning

\*4 Ministry of Regional Development, Higher Officer Specialist

\*5 Charles University in Prague, 国際交流基金派遣日本語専門家

によって過去の失敗として批判されながらも、変化に対応しながら得てきた地域独自の歴史や魅力を、地域に関わる主体の視点から読み解き、蓄積された地域の価値を明らかにすることで地域の再価値化を行うことを目的とする。

## 2. 社会主義時代体制下におけるチェコの住宅開発地

本研究では、社会主義時代に開発された住宅開発地として、プラハ市とオストラヴァ市内の大規模住宅開発地を事例とする。

### 2.1 プラハ市とオストラヴァ市

プラハ市とオストラヴァ市の二地域を見る理由として、まずプラハ市での事例は、比較的、経済状況が良好であり、目立った人口の減少なども見られない地域であるという特徴がある。特にプラハ11区では区行政が積極的に独自施策の提案を行うなど、相対的に恵まれた条件にあり、その環境再生の取り組みの成果も比較的大きく表れている地域であると考えられるため、地域の価値を見出しやすいのではないかと判断し、第一の調査地域とした。

しかし、全ての社会主義時代の住宅開発地がそのような状況下にある訳ではない。そこで、近年、工業の衰退によって都市の縮小に直面している（表2-1）オストラヴァ市の住宅開発地を第二の調査地域とし、より困難な状況下にある地域における社会主義時代の住宅開発地の再価値化を行うことで、その将来的な可能性をより多様に示すことを試みる。

なお、プラハ市の事例調査の結果については、参考文献3、参考文献4に、オストラヴァ市の住宅開発地Ostrava-Jih地区内の特色の分析については参考文献5に詳述している。

### 2.2 オストラヴァ市における調査対象地の選定

今回の調査対象地であるオストラヴァ市は現在プラハ、ブルノに次いでチェコ第三の規模を有する都市であり、社会主義時代、工業都市として開発が進んだが、近年は産業の空洞化等による都市の縮小に直面している。オストラヴァ市内には大きく3つの住宅開発地が存在する（図2-1、表2-2）が、社会主義時代の住宅開発地の将来的な可能性をより多様に示す、という目的に沿うため、調査対象地をOstrava-Jih地区とした。Ostrava-Jih地区は、他の住宅開発地と比較して(1)地域内に空間的な差異が生じる大規模住宅開発地であること、(2)開発期間が長期にわたり、住宅とその周辺環境の計画に時代による差異が生じている可能性が考えられること、の2点から、地域内により多様性が見いだせると考えられるからである。

## 3. Ostrava-Jih地区内の開発時期と空間構成による分類

大規模で長期的な開発が行われたOstrava-Jih地区内の開発時期と空間構成による地域的特徴を把握することは、地域住民へのインタビューを行うにあたって、特徴のある一部地域のみへのインタビューの集中を避け

表2-1 調査対象地の特徴の比較

	プラハ市	オストラヴァ市	チェコ共和国
面積[km <sup>2</sup> ]	496	332	78,867
人口(2014)[人]	1,259,079	325,640	10,538,275
人口増減率 (2007-14)[%]	103.9	96.7	101.5
失業率(2014)[%]	2	8.3*	5.9
1人当たりGDP (2012)[CZK]	762,956	319,314**	365,955

特色	9世紀頃から都市として発展し、社会主義時代の開発は主に都心周辺部の住宅地開発に留まる	18世紀の石炭の発見により発展が始まり、特に社会主義時代の開発が現在の都市形態に大きく関与
	プラハ11区	Ostrava-Jih地区
調査対象地 (着色面は社会主義時代に集合住宅開発が行われた地域)		
注)図の縮尺率は異なる		
面積[km <sup>2</sup> ]	9.79	17
人口[人]	85,800	110,000
市人口に占める割合[%]	6.8	30.7
開発時期[年]	JM I: 1971-85 JM II: 1981-92	Hrabůvka: 1960-70 Výškovice: 1965-75 Zábrěh: 1955-65, 85-89 Belšký les+Dubina: 1985-92
住宅の特色	イジュニームニエスト(JM) I, IIとして計画的に開発され、ほぼ全域がパネル住宅	Ostrava-Jih内部で更に細分化された地域ごとに開発され、異なるタイプの住宅が混在
居住者の生活水準	全体が一定水準以上	高所得者用～低所得者用住宅まで存在



図2-1 オストラヴァ市の市街化地域と工業地域（2014）

表2-2 オストラヴァ市内の主な（2500戸以上を有する）住宅開発地（参考文献6をもとに筆者作成）

住宅開発地名	人口	戸数	建設期間	住宅の階数
1 Fifejdy	23,268	8,123	1970-80	8-12,(16)
2 Poruba	56,035	22,237	1950-80	8-10
3 Pustkovec	24,277	8,285	70-80	8-12,(16)
Hrabůvka	35,071	13,601	1960-70	4,12-14,(16)
Výškovice	14,035	5,144	1965-75	4,8-12,(16)
Zábrěh	21,581	7,638	1955-65	4-5
Starý Zábrěh	18,664	5,722	1985-89	8-12,(16)
Dubina+Belšký Les	18,601	4,982	1985-92	12,(16)

1:Fifejdy 2:Poruba 3:Ostrava-Jih地区(本研究の調査対象地)

るために必要である他、開発の背景を知ることはインタビューの発言の理解の助けとなる。そこで、オストラヴァ市アーカイブでの資料調査と現地踏査によって、Ostrava-Jih 地区の開発時期と空間構成の把握を行った。

### 3.1 開発時期による Ostrava-Jih 地区内の地域区分

まず、オストラヴァ市と、Ostrava-Jih 地区の社会主義時代の開発計画に関するものとしてどのような資料が保管されているかを把握するため、オストラヴァ市アーカイブ訪問を行った。最初の訪問で、オストラヴァ市内の航空写真や地図がデジタルデータとしてまとめられていること、Ostrava-Jih 地区の一部地域の開発当初の計画図が保管されていることが確認され、更に詳細な資料が得られる可能性があることが分かった。そこで、2回目のアーカイブ訪問時にはチェコ語 - 日本語通訳者1名を伴い、資料カタログの中から関連する資料を探し出す作業を行った。しかし、地域計画に関する総合的な図面については、1回目の調査で確認された一部地域についての部分的な資料以外には見つけることができなかった。また、2回目の調査において、開発当初の Ostrava-Jih 地区の写真は複数枚発見されたが、写真が撮影された正確な年や場所については記されておらず、これらの特定は困難であった。

アーカイブ調査で得られた地図と開発計画書から、Ostrava-Jih 地区内の市街化の順序と、住宅棟タイプ（一部）をまとめた<sup>注1)</sup>のが図3-1である。

なお、このことから、プラハ市の調査対象地であるプラハ11区イジュニームニエストの事例においても、同様の資料がプラハ市アーカイブに保管されている可能性が考えられたため、プラハ市アーカイブの訪問も行ったところ、都市計画に関わる資料は全て IPR PRAHA (Prague Institute of Planning and Development) に保管されていることが分かった。しかし、それらの資料は未整理で

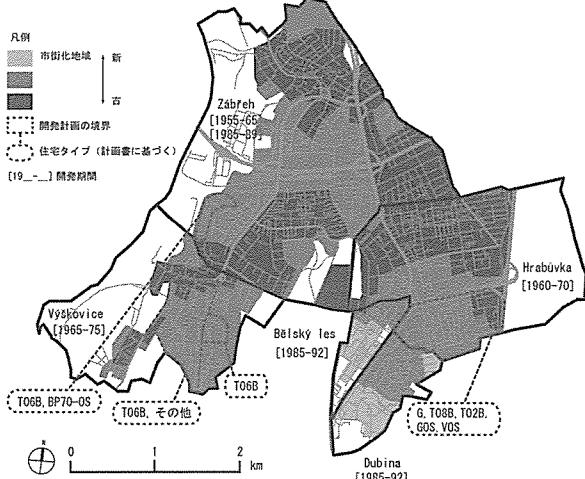


図 3-1 Ostrava-Jih 地区内の市街化の順序と、住宅棟タイプ（一部）

あるとのことであったため、3回目の現地調査までに関連する資料を整理していただいた。その結果、イジュニームニエスト I, II 計画図、開発前のコンペ案、雑誌でのコンペ案に対する講評等、大量の資料が保管されていることが明らかになった。これらの資料分析については、今後更に詳しく進めていきたい。

### 3.2 住宅棟階数による Ostrava-Jih 地区内の地域分類

パネラークは、国家レベルでも 50 タイプしかなく、これらが 80,000 棟全てに使われた（実験住宅は含まれない）文<sup>7)</sup>注<sup>2)</sup>。社会主義時代に建設された住宅のタイプには限りがあるものの、民主化以降、断熱改修や窓、ベランダの改修が一般的に行われており、限られた時間内に、外観のみから Ostrava-Jih 内の全住宅の住宅タイプを判断することは非常に困難である。しかし、住宅棟の階数は開発時期によって差があることから（表3-1）、今回は住宅棟の階数によって Ostrava-Jih 内の住宅棟を分類することで、空間構成の把握を行った<sup>注3)</sup>（図3-2）。

### 3.3 Ostrava-Jih 地区内の開発時期と空間構成による地域的特徴

図3-1と図3-2より、戸建て住宅は社会主義時代の住宅開発初期には既に存在していたこと、低層住宅中心ゾーンは開発初期に建設されたことが分かる。また、アーカイブに保管されていた計画書に示された計画範囲（図

表 3-1 住宅開発地の開発時期別の特徴  
(参考文献 9 をもとに筆者作成)

開発時期	住宅開発地の特徴	
	1950年代	1970年代
1950年代	レンガ造り2階建てで、どちらかといえれば小さな住戸(2部屋とキッチン)が建設され、生活環境はよく、社会的インフラも考慮されていた。	
1970年代	殆どの高層(15階建てでも例外的ではない)プレハブ住宅と、最大4-5階建てのプレハブ住宅の団地において、2-3部屋とキッチンの住戸が建設された。環境の質は1950年代よりも低い綠地と公共空間が十分ではないが、ヘルスセンターや託児所、幼稚園、学校といった社会的インフラは備わっていた。	
1980年代	共産主義時代の経済的薄弱と投資削減の必要性のため、4部屋住戸が建てられたものの、住宅団地の建設は最低の質であった。構築環境を無視した、並外れた人口密度、綠地や公共空間といったアメニティの不在、不十分な社会的インフラが特徴である。	

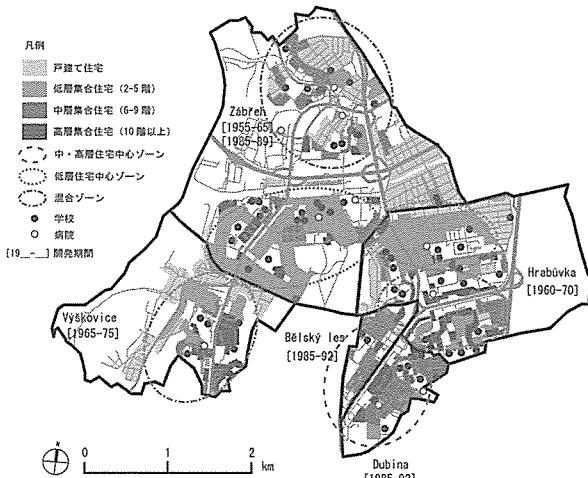


図 3-2 Ostrava-Jih 地区内の住宅棟階数による分類と公共施設の分布

3-1) と、低・中・高層住宅棟の配置・割合の違いによるゾーン分け(図3-2)より、プラハ11区がイジュニームニエストI, IIという大きな町として計画されていたことと比べ、Ostrava-Jih地区の開発は地区内でも更に地域を細分化して行われていた可能性が考えられる。

なお、公共施設の立地については、現状において大きな地域差は見られない様に思われるが、Ostrava-Jih全体に渡って多くの学校・病院は集合住宅ゾーンに位置しており、戸建ての住民にもサービスを提供していると考えられる。

#### 4. Ostrava-Jih地区に関わる行政による社会主義時代の住宅開発地再生施策

Ostrava-Jih地区に関わる行政による社会主義時代の住宅開発施策について明らかにするため、オストラヴァ市役所担当者、オストラヴァ大学人文地理・地域開発学科のPetr Rumpel氏、またRmpel氏の紹介により、Strategy of housing policy Ostravaを作成している行政関連企業PROCES(Centre for Municipal and Regional Development, Ltd.)のLubor Hruška氏へのインタビューを行った。

なお、Ostrava-Jih区役所の都市計画担当者にもチェコ語通訳者を介してインタビューの依頼を行ったが、詳しいことはよく分からないので市の担当者に連絡して欲しい、とのことであり、インタビューの実現には至らなかつた。

##### 4.1 国家レベルの政策

前述のPetr Rumpel氏へのインタビューによると、社会主義時代の住宅開発地再生に対する国家レベルの主要な政策は、Podprogram Podpora Regenerace Panelových Sídlišť (Programme for the Regeneration of Prefabricated Housing Estates)とNová Zelená Úsporám (New Green Savings Programme)の2つである。前者は自治体に対して支払われる補助金で、建物だけではなく建物周辺部の再生に対しても使用可能であるのに対し、後者は建物再生のみに使用される補助金で、省エネ改修などに使用することが出来る。

##### 4.2 オストラヴァ市の方針

オストラヴァ市役所担当者へのインタビュー<sup>注4)</sup>によれば、住宅政策については市は特別なことは行っておらず、現在取り組むべき問題として認識しているのは、社会的弱者についてであり、現時点では対処法を検討中とのことであった。また、最も重視しているのは新しい雇用機会を生み出すことであり、工業地域の再生は市が中心となつて行っている、とのことであった。

また、都市計画について、区行政との関係を尋ねると、

それは主に市の担当であり、区行政との関係は特にない、とのことであった。

これらのことから、オストラヴァ市においては社会主義時代の住宅開発地再生に対する行政の積極的介入は行われていないと考えられる。

#### 4.3 Ostrava-Jih地区の民主化後の変化

以下の1)～4)は、Lubor Hruška氏(PROCES)へのインタビュー<sup>注5)</sup>によるものである。

##### 1) Hrabůvka 地域

Ostrava-Jih地区内の各地域の違いとして、先に開発されたHrabůvkaでは開発当初に入居した人々が高齢化したこと、地域の高齢化が進んでいるのが問題である。

また、HrabůvkaのJubilejní地域は元々はロマ人と所得のとても低い人たちばかりが住んでいた。失業率も非常に高かったが、2000年頃から再生が始まり、今はお金持ちの人たちが入ってくるようになった。代わりに元々住んでいた人々は、アパートは部屋が狭くて家賃が安い、Čujkovova地域に移動した。

##### 2) Ostrava-Jih地区の問題点

Ostrava-Jih地区全体の問題は、中心が無いことである。各地域に交通の連絡はあるが、地域同士が接続していない。元々の計画では、Bělský les(森)の周りに全ての中心施設を入れる予定だったが、実際には何も実現していない。社会主義時代の規則に従って、既存の開発地域に施設を増やすことになった。

Ostrava-Jihで一番の問題は労働者のための宿泊施設(チェコ語でubytovna, hotelový důmなどと呼ばれる寮のような施設)であり、所得の低い家族世帯が住んでいるが、住環境が悪い。オストラヴァ市全体では5000人程度が住んでいるが、そのうち3500人がOstrava-Jih地区内のubytovnaに住んでいる。建物はパネル住宅だが、中は寮の様になっている。これは個人所有の建物で、宿泊費が得られるので問題になりながらも存在し続けている。

##### 3) Ostrava-Jih地区の良い点

Výškoviceもパネル住宅開発地だが、開発当初は今よりも魅力的に捉えられていた。建物の密度が低く、森へのアクセスもよく、サービスも良かったので住みやすかったと考えられる。現在一番魅力的な地域はJubilejní地域であるが、ここは私有化されておらず、市が所有していて、売る予定はない。Ostrava-Jih地区はオストラヴァの中で市所有の建物が一番多く、建物から得られる家賃収入も多い。プラハの社会主義時代の住宅開発地と違うのは、町の中心まで(車で)10分位で行けること。Porubaには病院もあり、近くにあるHraboráの工場に仕事に行く人も多いので、アクセスが良いと言える。

##### 4) 将来の展望

将来的なOstrava-Jih地区の展望としては、周りに工場

が沢山あり、その労働者が沢山住んでいるのに加え、最近では医者など、高所得者も来るようになっているので、再生すればチャンスがあると考えている。今はオストラヴァ市人口の1/3がOstrava-Jih地区に住んでいる。住環境レベルは高いとは言えないが、アパートが安いので若者に魅力のある地域になっている。最近の2~3年は郊外化の割合が下がってきて、町の中にアパートを欲しがる人が増えてきている。

インタビューより、民主化以降、高所得者／低所得者向けの住宅が生じていたことから、元来比較的均一であった住宅開発地内の居住者の生活水準が、民主化以降、格差を広げつつあると考えられる。Ostrava-Jih地区はオストラヴァ市の人口の1/3を抱える大規模住宅開発地であることからも、今後Ostrava-Jih地区の再生を考えていく上で、社会的地位の異なる居住者間の関係性を配慮する必要があると考えられる。

## 5. Ostrava-Jih地区住民へのインタビュー

資料調査、現地踏査、インタビューによって確認されたOstrava-Jih地区内の住環境の差異を踏まえて、居住地域の異なる住民へのインタビュー調査を行った。

### 5.1 インタビューの実施

研究関係者の知り合いを紹介してもらうことで、14名のOstrava-Jih地区住民の方へのインタビューを行った。インタビューは2015年9月27日~30日の4日間、1人または家族単位で、チェコ語-日本語通訳者を介してそれぞれ1時間程度行った(表5-1、写真5-1)。質問事項は、Ostrava-Jih地区に住み始めた時点から今までの時系列に沿って、インタビューの日々の生活の様子や地域に対する印象、住環境改善のための取り組みなどについて

表5-1 インタビューの基本情報とOstrava-Jihの地域名

性別	年齢	居住歴	職業
A-1 女	52	Zábrěh 1963-	旅行会社
A-2 男	54	Zábrěh 1961-	ソフトウェア関係企業
B 女	36	Zábrěh 2005-	旅行代理店
C 女	27	Zábrěh 1988-	大学職員
D 女	29	Dubina 1986-	公務員
E-1 女	62	Dubina 1991-	無職(元食品会社)
E-2 女	29	Dubina 1991-2013 Hrabůvka 2014-	会社員
F 女	38	Zábrěh 1977-1999 Hrabůvka 2000-05 Zábrěh 2006-	パソコン関連企業
G 女	63	Výškovice 1990-2010 Zábrěh 2012-	無職(元公務員)
H 女	35	Výškovice 1990-2010 Zábrěh 2014-	イベント企画会社
I 女	30	Zábrěh 1985-2007 Hrabůvka 2008-	シェフ
J 女	35	Zábrěh 1980-2005 Hrabůvka 2006/7-	大学のPRマネージャー
K 女	36	Zábrěh 1979-2005 Výškovice 2006-	学校教師
L 女	28	Výškovice 2009-11 Zábrěh 2012-	広告会社

注)A-1とA-2は夫婦、AとCは親子、E-1とE-2は親子、GとHは親子

て話してもらった。話題については、話が途切れることが無いように予めいくつかの質問を用意したが、話の途中でインタビュ어が思いついたこと等も自由に話してもらった。また、インタビュ어が地域に対して何らかの特別な行動を行っていた場合(住宅棟の組合長、共同スペースの管理係等)については、その状況に応じて質問を加えた。

また、インタビュ어の話に出てきた場所についての曖昧さを可能な限り解消するため、インタビュー時にはOstrava-Jih地区とその周辺部の地図を用意し、インタビュ어が特定の場所を指摘する度に本人に確認しながら、地図に記入した。また、話題に上った場所については、後日現地踏査を行い、可能な限り、位置情報や現在の状況についての事実関係を確認した。

### 5.2 インタビューの結果(速報)

インタビューで得られた結果を図5-1、表5-2に示し、その話題別に詳細を見ていく。なお、[A]~[L]は各発言を行ったインタビュ어、写真タイトル内の(数字)は図5-1上の数字と対応している。本節の写真は全て筆者撮影である。

#### 1) Ostrava-Jihに引っ越してきた頃の、地域に対する印象

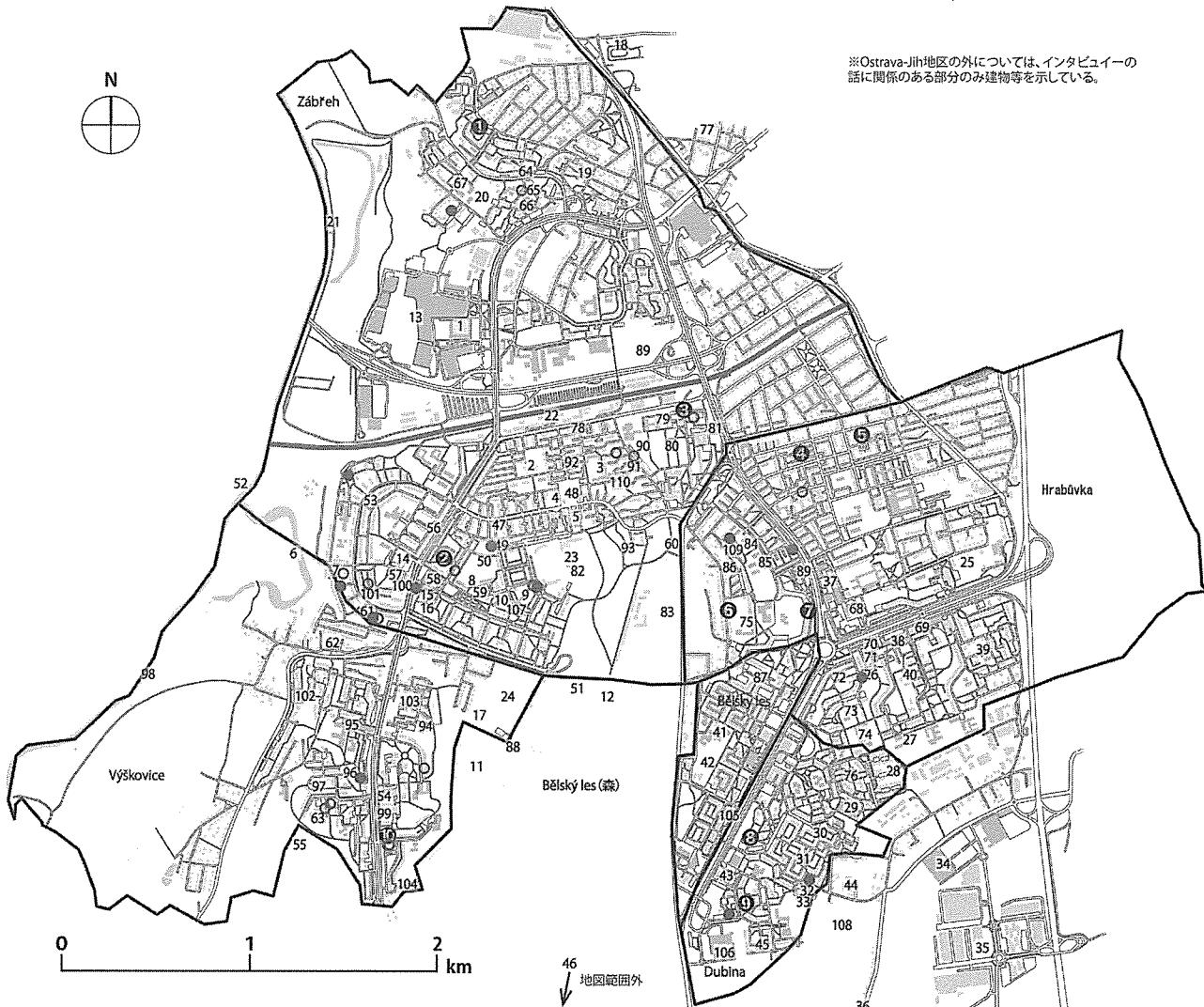
引っ越し当時の印象は、特ない人[L]、良かった人[G][J]、悪かった人[E-1]、引っ越す前のイメージは良いものではなかったが、実際に生活してみて良かったと感じた人[B][H]、と様々であった。8名のインタビュ어はOstrava-Jihで生まれていた。

#### 2) 自宅

自宅は断熱改修や窓の改修を経て快適になったと評価した人[A-1]がいた一方で、窓の改修を行った会社が悪く、カビやすきま風などのトラブルが起こったとの指摘[F]もあった。協同組合と個人所有の所有者グループが存在する住宅棟では、グループ間の意見がまとまらず、二つの会社に依頼して改修を行ったというエピソードや、現在でも断熱改修に関しては合意形成が出来ていない[K]といった話が聞かれた。断熱改修については他のインタビュ어からも居住者間の合意形成が難しい[F][I]



写真5-1 インタビューの様子



各地域の住宅棟の例



1 お店	21 川沿いの道	41 幼稚園・小学校	61 スーパー	81 道路を挟んで唯一の一軒家	101 スーパー
2 病院	22 病院	42 遊び場	62 レストラン	82 遊び場	102 住宅エリア
3 小学校	23 ブール	43 スポーツセンター	63 元小学校	83 遊び場予定地	103 住宅エリア
4 市場	24 野原	44 新しくできた住宅群	64 元スーパー	84 幼稚園	104 喫茶店
5 お店	25 元幼稚園	45 新しくできた住宅群	65 遊び場	85 小学校	105 新しい住宅
6 池	26 レストラン	46 ブール	66 スーパー	86 遊び場	106 スーパー
7 遊び場	27 ギムナジウム	47 クラブ活動をしていった場所	67 小学校	87 元公園	107 遊び場
8 小学校	28 遊んでいた場所	48 貧しい人のための寮	68 病院	88 森と野原	108 紙の木
9 遊び場	29 小学校	49 スーパー	69 スーパー	89 遊び場	109 遊び場
10 お店	30 建物が灰色のエリア	50 元幼稚園	70 商店街Venuše	90 遊び場	110 幼稚園
11 ショギングコース	31 遊んでいた場所	51 森の中の公園	71 スーパー	91 遊び場	
12 Bělský les(森)	32 スーパー	52 川沿いの道	72 遊び場	92 ロマ人が増加したエリア	
13 ショッピングモール	33 喫茶店	53 コンビニ	73 幼稚園	93 レストラン	
14 お店	34 スーパー	54 商店街Odra	74 小学校	94 幼稚園	
15 遊び場	35 ビジネスエリア	55 森	75 専門学校	95 スーパー	
16 幼稚園	36 新築の一軒家群	56 商店街Kotva	76 遊び場	96 遊び場	
17 自転車の障害物コース	37 商店街Broadway	57 ディスコ	77 元ロッククラブ	97 遊び場予定地	
18 ローラースケートコース	38 商店街Spáleček	58 映画館	78 遊んでいた場所	98 川沿いの道	○ インタビューアーの以前の家
19 レストラン	39 ポーリング場(正確な場所は不明)	59 遊び場	79 元病院	99 スーパー	● インタビューアーの現在の家
20 陸上トラック	40 レストラン	60 サイクリングパーク	80 サッカーグラウンド	100 住宅	

図 5-1 インタビューアーの指摘した箇所の位置情報

表 5-2 インタビュイーの話のカテゴリー別分類

表 5-2 (続き) インタビュイーの話のカテゴリー別分類

※1:インバウイード番号		※2:着色=社会主義時代の話、着色+変化=社会主義時代から民主化後の変化、変化=民主化後の変化	
※1	※2	地図の番号	話題
A-2	10,5,4		小さな買い物センターがあり、そこに行っていた。今もある。こちには大きなお店もある。近くにある市場では新鮮な野菜などを売っている。野菜はほとんどボーランドからの輸入だけだ。それから、Vyskovickovaの商店街Kotova。
A-2	変化		お店の印象は、今と昔で全然違う。比べることもできない。昔は肉は朝日だけ、一部の菓物や野菜はグリースしかなかった。たまにはあつたけど、そんなときは行列ができるみんな並んでいた。パンとかは毎日買うことができるだけ、珍しいものはうすではなかった。チーズやヨーグルトは種類が少しきなかった。洋服もあまりなくて、大体みんな家で作った。特に子ども服は。
A-1,A-2	1,4,10		買い物は昔と同じように一番近い街に行くと、大きな買い物はKauflandに行く。昔はこういつ大きなショッピングセンターは無かった。小さいお店と市場は昔と同じ。
B	14		Hruskaというスーパーに行く。
B	13,14		ここにはお店、レストラン、教会がある。特別なスポーツ用品や家具などは、Shopping Parkという大きなショッピングセンターに行く。子どもはIkenのレストランのミートボールが好き。
C	13		買い物はKauflandに行く。うまい买东西も、家から歩いてどこにでも行くことができるのだ良い変化だと思う。
D	32,106,34	スーパー、ショッピングセンター、商業街など	ショッピングセンターは90年代にできた。中心部で歩行しながらも大きな買い物ができるので良い変化だと思う。
F	49,56,1		この家の近くのスーパー、Hruska、KotovaのBIO食料店、Kauflandで大きな買い物。
G	56,53		買い物はKotovaの商店街。家の近くのコンビニ。
H	13,61		Shopping Parkへは、大きな買い物をしても、家から歩いて行く。日常の買い物はBilaと、Hruska。駅便局も近くにある。Hruskaはこっちにもある。
I	64,66,1		買い物はKornaiとHruska。Kornaiはうまい。後はKauflandができたので、そこに買い物に行くたりしていた。Shopping Parkの中でも、Kauflandが最初にできた。大体15~18年前位。今も両親がZabrehに住んでいるので、Zabrehへ行きときはショッピングに行くよ。
J	34,71,69		大きな買い物の殆どはTescoで。日々の買い物は家の近くのHruska、Albert。
K	37		商店街Broadwayで以前は買い物に良い場所だったけど、今は問題の高齢の人たちが集まっているうるさいし、安全な気がしない。
K	95,98,13		日々の買い物はAlbert、Hruska、Shopping Parkはまじで。多分90年代初頭にできた。駅の終点にはIntersuperがあって、家から歩いて10分くらいでTescoもある。両方とも2000年頃出来たと思う。
L	93		駅の近くのスーパーで、毎日買い物。
L	13,101		大きな買い物はKauflandで。歩くのに向いてない。日々の買い物は駅の近くのHruska。
L	変化 13		大きな買い物はKauflandで大きな買い物が出来た。
C	104		Forumbusの近くで喫茶店でチャイを「cajovna」と呼ばれる。独特な東洋的な雰囲気のお店。アジアのお茶や食事、水タバコなどが出来る。中高生が良く行くなどに行っていった。Ostrava-Jihにもあって、とても人気。今は少し変わったけれど、でも良いところ。
C	19		ここにエレベーターがある。高級なレストランで、エレベーターだった建物を改修している。自家製ビールがあって、よく飲みに行く。
D	33		友達がレストランに行く。近くにあるラウンジ喫茶店Provenceにはよく来る。
D	26		オランダのナシマの高学年になると友達とレストランで喫煙したりしていた。後は友達の家に遊びに行ったり。
E-1	40,26		La VIDAというレストラン、それからSkoka。
E-2	35		カフェProvence。3年前に出来た。
E-1,E-2			映画館や劇場などの文化施設がDubniciにはないので、欲しい。居酒屋しかない。
E-2	38,37,39		学生の頃、Spaltekの商店街にも行った。ここには小さいお店が沢山ある。例えばペットショップとか、あとBroadway。ここにも小さなお店やレストランがある。このあたりでボーリングをしたり。今は会社の人と別の場所にボーリングに行く。
F	104		大学の頃は、この駅の駅前などに行っていた。
F			ボーリングにはあまり行かない。
G	6,56,53	飲食、娯楽施設など	ショッピングにはいけない。
H	58,62		Kino Lunaなどにこなれるケータリングさんは美味しい。最近できた。それからBelsky lesのサイクリングパーク、このレストランは、ビールを飲みに。夫がこのシュニッツェルが好き。
H	変化		映画館が改修されて、新しいお店が渋谷出来て、より便利になった。
I	70		Venusのレストラン。結構近く。
I	37		Broadway商店街。レストランディスティックがある。大体この地域にいた。同級生は中央部のStodolni通り(バーや居酒屋が集まっている通り。チェコでは有名な観光地だが、たまに暴力的な事件などがある)に出かけていたが、自分は歴史のためで良かった。
J	77		家の周りに居酒屋とカラオケが多くて賑らしてほしい。
J	変化		この辺り最初のカラオケができた。Skeln(駅南)道といで名前で、本当に地下にあった。高校の時の同級生と一緒に歩いて、小学校の同級生と再会したりした。唯一のロッククラブだったから、みんなここに行ってた。ほんと毎日行ってた。今はクラブは残るかもしれないけど、元々はここだけ。今でもそこから知った人たちと会っている。スクートボードをやっているひとが、壁に絵をかく人とか。一つのコミュニティになっていて、自分が歴史のかっこで良かった。
K	77,70		駅の近くの居酒屋、Beskyleの山までかけていた。山にコテージがあって、友達と行った。
L	38,57		最初の頃は、ディスティック半周間、週末はディスティックでアルバイトしていた。最初の4年間はずっと同じ友達と一緒に住んでいて、その友達とディスコやレストランを行った。
A-2	2		ディスコはちょっといいけど、みんな元気なのがいい。歩くのが危ない。
A-2	3,8		小学校ではここにこの二つ、歩いて5分のところにある。
B	16,8		幼稚園や小学校は満足しているけど、必ずしもいい。
C	22		ここが子どもの幼稚園で、こっちから小学校。
D	29,25,27		幼稚園は駅のHrabuvkaがあって、小学校はそこから離れていて、だから近い。幼稚園は今はビザ版になって、もうない。通っていたギムナジウムはここ。
E-2	41,27		幼稚園と小学校は同じところで、中高が今はムナジウム。
F	8,50		幼稚園は小・中学校は近く。幼稚園はではない。
G			幼稚園などの公共施設についても全部満足。
H	63	公共施設(病院、幼稚園、小学校など)	小学校は駅の近く。
H	変化		幼稚園などのサービスはよくなかった。
I	68,73,74		幼稚園、幼稚園、小学校が隣のすぐ近くで、それはとても便利。
J	48		通っていたのは他の国語が学ぶ。オストラハーも一流れの学校で、他の地域からも子どもが通っていた。最初はロシア語、5年生からそれに加えて英語、6年生からロシア語の代わりにドイツ語。入学には選抜試験があった。前はどうもいいところだったけど、今はまだに高い人のための学びで、そこが出来てからは治安が悪化した。母も同じ通りに住んでいたけど、それが理由で引っ越しした。今はその小学校にも貧しい家族の子どもが很多になっていたので、幼馴染のレベルが下がった。
J	変化		自分の息子(1年生)が通っている小学校にロシアの子どもが多くて、彼女はあまり勉強しないので、全体のレベルが下がった。
K	110,3,27		通っていた幼稚園と小学校はここ。通っていたギムナジウムはここ。
K			大学は、医者になるため勉強を全くしていなかった。Budjoviceに行つた後、やっぱり教師になりたくてOstravaに戻ってきた。大学はOstrava中心部。戻ってきた頃、Stodolni通りに新しい居酒屋やクラブが作られていて、そこに行っていた。
K	8,94		子どもの小学校はここ。幼稚園はつち。
A-2		スポーツ施設	スマリーピールはほしい。今は床屋で夏だけなので、屋内プールはほしい。
E-1,			Star Belkaのブルーは外なので、室内ブルーがほしい。
E-2	46		子どもの頃、夏はプールに行ってた。
G			幼稚園が向けの運動器具を公園においてほしい。韓国植物のためのエクササイズの器具。HrabuvkaにはあるけどZabrehにはないので、ここにも作ってほしい。
L	46		夏はプールに行く。
A-2	変化	交通機関、他地域へのアクセス	普通全くない。トラン、バスも増えたり減ったりしていない。
B	変化		バス停が広くなつて、ペビィーの上り下りが便利になった。
C			自分の駅のPorubaも、主人の職場の最寄り駅も結構近く、特にここからは、前の家に比べるとより便利になった。通勤時間も短い。
F			他地域へのアクセスの利便性は良い。車を使っている。
G			交通は満足している。近くバスも車も走っているので便利。
G		駐車場	一改善してほしい点は、昔はそこそこはなかっただけで、今は家の前の通り(Volgogradská)に車が両側に渋滞止まっている。その駐車のせいで女の子が事故で亡くなつた。車の脇から出でてくるのが見えなくて。駐車の問題を解決してほしい。
B	14	地域のイベント	子ども用のイベントに参加する。ミクラーシュの日など、たまに教会でのイベントに参加する。
I	70		Venuesの一節でいろんなイベントある。例えば子どものためのイベント、幼稚園や小学校のイベントもあった。
K	変化		ミクラーシュの日のお祝いなど、Ostrava-Jihじゃないけど、Ostravaの動物園にいったりもする。
L	19,5		イベントが増えた。
L	変化		主にイベントをやっている、ビルのお祭りに参加した。別のところでもイベントがあったけど、仕事があつて参加できなかつた。一番面白いイベントは中心部でやっているので、そっちに行く。
A-1			学校が近くに住んでる人は多い。駅は沂州が近かった。
A-1	変化		昔は同じ建物の人のみんな一家のようにして住んでいたけれど、今はそうではない。以前は人づきあいももうとつなかつた。今は同じ建物でも知らない人もいる。昔は同じ建物の人たちはみんな一緒に建物の外で積み草を積み、掃除をしたりしていた。今はしない。
B			最初の引爆した駅は誰も知らない。子どもの遊び場や、幼稚園で知り合いつくことができた。6家族くらい。
C			最初の小学校の駅(6-7歳)は、本当に本当に住んでいた。子どもたちは友だたんが、二番目の小学校(外語が学べる特別な学校、9-15歳)に行くようになってから、いろんなところから来る子と友達になつた。
C			まだない。将来の子に子どもが生まれてから子どもを通して会うことができたらいいと思う。
D			小学校の駅は同じ駅構内に友達いた。子どもの間に比べるとあまりない。友達は色々なところに引っ越しで減った。
E-1		近所付き合い	同じくらいの時期に引っ越ししてきた人は、良くなつて、ずっと前から近所に住むようになった。後から引っ越ししてきた人に 대해서は良く知らない。特に同じ階に住んでいる人は良く知っている。ずっと住んでいる人は3分の1くらい。3分の2の人は近くに来ても、賃貸で住んでいる。
F			ある駅に建物で住んでいる人は、例えば子どもが生まれたときは、ほとんどどの人が遊びに来て、プレセントがされた。隣の建物の人とも、挨拶だけじゃなく手紙をしたりする。自分はこの地域に生まれたが、知り合ひも出で山形で、都会の人に山の上の人間像がある。ほとんどの人が長く住んでいる。新しい来れる人は大体賃貸。
G			あの人はひとりで、他の人はあまり交流しない。内向的な性格。
H			駅山にはないけど、近所に通り合っている友達がいた。小学校は駅の駅構内にあった。
I			前の学校や高校の駅の友達をみんな引いて会つては出来ないけど、Facebookで連絡を取り合っている。近所付き合いはあまりない。
K			今は休みを踏んで過ごすなど、近所付き合いも結構ある。今は同じ駅の下で家賃を支払ひ合ひがあるけど、遊びに来たりはしない。道を渡つたところには友達が住んでいるけど、近所とは言えない。同じ建物の家族は、子どもを育てて、他の人の改修を助ける。
C		空気	空気はきれいにしてほしい。
F			空気は比べられないけど、Porubaと比べると空気が悪い。埃が多い。特に冬は汚れがひどいので、外に出かけない方が良い。空気がきれいにしてほしい。
J			空気は比べられないけど、Porubaと比べると空気が悪い。埃が多い。特に冬は汚れがひどいので、外に出かけない方が良い。空気がきれいにしてほしい。
K			空気はきれいにしてほしい。
B	変化	建物、道路全般	周囲の建物はまだ残れて、前の灰色と比べてきれいで、鮮やかになつた。改修も進んだ。
C	変化		コローナーストアで買った。建物がきれいになった。歩道や停車場がかなりの地下通路はまだだけど、他の道路は改修されたのも良い。
C	18,13		コローナの駅構内の地下通路がきれいではないで、使ってほしい。
D	30		この辺は建物が壊れて鮮やかになつたけど、この辺はまだ灰色なので、色を徐々に変えてほしい。
D	35,36,34		この工場地盤は新しく出来た。昔は野原だった。この通りの一群が新しくできた。個人的には緑が少なくなって残念。客觀的に言えば、雇用機会が増えるのはいいことだけど、自分は別にそこで働いていないので。データは良い。
E-1	変化		Dubinaの変化は、新しい建物が増えた。住宅と、スポーツセンター、スポーツセンターは10年前に出来たけど、行ったことはない。私たちがプールが好きだけど、プールがないから。
F	変化	建物、道路全般	建物が新しくなっているのも、わざわざ入り手を入れてもらっている。
G	変化		建物が全部新しくなっているのも、わざわざ入り手を入れてもらっている。
J	変化		良いなつとこら、歩道がちゃんと手入れされていること。
K	変化		コローナの敷地が狭くなった。前は二つの建物で住んでいたけど、最近そういう建物の数が増えた。広場の建物が改修されてきれいになつた。
L	変化	14,56,54	歩道が整備を終えてほしい。
L		100	半年前と比べて、色々な建物が改修された。例えば、この建物は半年前前に改修された。Kotovaの商店街もきれいになつた。前に住んでいたVyskoviceの、社会主義時代の店やレストランがあったOdraの建物が今取り壊されているもの、代わりにもっと大きい新しい店のを建ててる予定があるので、良いことと思う。

表 5-2 (続き) インタビューアの話のカテゴリー別分類

\*※1: インタビューア番号 \*※2: 着色=社会主義時代の話、着色+変化=社会主義時代から民主化後の変化 変化=民主化後の変化

*※1	*※2	地図の番号	話題	詳細な話
F	変化	48	治安	元々は安全な地域だったけど、今はそんなに安全ではない。問題がある住民や、スリが増えた。家賃が払えない人のための特別な寮ができた。5年前から、Jih全体じゃなくて、具体的にこの地域だけ。安全面を改善してほしい。
G	変化			悪いところは、若い世代がいるといと、ごみの片づけをしないこと。ホームレスが近くの森に棲んでいる。それも以前は無かった。ホームレスは夜にゴミ箱からいろんなものを取って周りにごみを散らしたりする。それは2年前からある。なんとか理由は分からぬけど、増えた。
H	変化			貧しい人のための寮が、この地域に影響を与えている。寮ができたことで、周りのアパートの賃料が下がった。
I	変化			貧しくないのは、ホームレスの数が増えたこと、犯罪率が上がったこと。
J	変化	37,12		治安が悪くなったら、Vitkoviceや市中心でいたローマ人が引っ越してきた。もちろん問題のないローマ人もいるけど、問題のある人も来た。特に貧しい人のための寮が5つある。この広場にも、貧しい人のための寮が出来て、以前はきれいでは安全な場所だったのそこではなくなってしまった。寮が始めたのは10年前から、元々は組合の人たちが自分たちで作ったからとても幸せで、とてもいい地域だった。共産主義時代に市からこの地域のアパートを指定された。みんな喜んだし、うやまやがられた。元々 Vitkoviceにいたけど、政治的、経済的理由で無理やりこっちの地域に移された。多分中心部で高い建物を充りたくて、問題のあるたちをちらり移してしまったと思う。
J				貧しい人のための寮がなきなってほしい。寮があるだけで、地域全体に悪い影響がある。
A-1		6,12		Belsky lesが一番好き。好きな池もあるけどそれはOstrava-Jihではない。ここにサイクリングコースがある、散歩に良い場所です。秋には森にキノコ狩りに行く。今ちょうどその季節。
A-2		11,62		好きな場所はBelsky lesのジョギングコース。それからホスピタル(酒屋)、ビルが美味しい。ずっと昔から行っている。
B		14,17		子どもの遊び具公園、自転車のための宿泊所コース。
C		21,18		川の近くの地域。もぐず自然保護地域に予定。それから、2年前にできたローラースケート用の特別な施設も良い。ローラースケートをよくするので。
D				自分の家が一番。他の地域と比べる限りに銀がいいことは不満。
E-1	Ostrava-Jihの中で好きなところ	12,26,40		Belsky les、それからレストランが好き。
F				森が好き。
H		60,52		一番好きなのはBelsky les、サイクリングコースも良い。川の向こうにある池も好き。私たちはスポーツ家族なので、運動とピールが好き。映画館もいいけど、4人で行くとちょっと高い。
I		12		Belsky les、子どもと一緒にピクニックするのが好き。森の前と池と手入れがされてきれいになくなった。子どもは葉っぱや松ぼっくり拾うのが好き。
J				家の前の遊び場。子どもたちの両親がベンチで会っていたんな話をしたり、子どもの誕生日のお祝いでグリルで内を焼いたり。近所付き合いが強い。
K				自然の頂き。森や川があって、山にもすぐ行く。
L		12,58		元々 Belsky 山が近くで生まれたので自然に親しんでる。遠くの町に自転車で出かけることも多い。Ostrava-Jihの中では川とBelsky les、映画館も好き。
A-1				Vitkoviceは仕事場だったので普通の人は入れなかったけど、一年に二回、5月1日だけ市民が見学に行けるお祭りみたいなのがあった。5月1日だけ仕事を見ることができるが、とても難しくてつらそうな仕事だった。
A-2				中心部については、青の印象が全般灰色、緑とか、鮮やかな色は無かった。
B				中心部では、あまり行きない。ペニーカーが大変なの。あまり遠い所ではいけない。中心部に行くときはペニーカーに必要な設備がありないので、長旅の移動などが大変。
C				高校はPorubaにあった。この近所ではまだ駅がなかった。
D				職場は中心部にあって、この辺では出かけなくなったり、休日も、あせどこにも出かけない。二週間に前に動物園に行きたけど。
E-1	Ostrava-Jihの外			中心部に住む二つのショッピングセンターには行かれていない。PorubaやTřeboviceに行く、職場がTřeboviceだったので、ガラント商店を作っている会社で、品質チェックをする仕事をしていた。
F				高校はPorubaにあった。大学は中心部にあった。
F				中心部は、街角で水泳池があった。木陰で、あせどこにも出かけない。
H				高校時代は毎末にBeskydy山で泳ぎながらボルダリングをしていました。大学生の頃はPorubaのcajovnaに行ったり、Porubaにある大学寮の大学のクラブにいたりしていました。
I				中学校はPorubaで、中心部。高校はPoruba。学生の頃は中心部のお店に良く行った。ケーキ屋さんとか。
L				おばさんみたいな感じで、おじいちゃんみたいでPorubaに行っていた。
A-1				駅まで行く駅は六本中心部。
A-2				駅以外は必要なものは全部そろっていて、楽な生活。友達も近くにいるし、仕事場への交通も便利。町全体としてはBeskydy山が近くで、車で一時間で行ける。一番問題なのは、空気が悪いこと。今から、秋冬が一番ひどい。
B	オストラヴァ全体			中心部ももっとにぎやかになってほしい。街が開まってから誰もいなくてさみしい場所になっている。近くに大きなショッピングセンターができるから、小さなお店がなくなってしまって中心部がさみになった。あと、空気がきれいになくなった。
L				中心部のペニーカーで、青いバスに乗る。駅まで歩いていくと、駅の前でバス停がある。
A-1,				オストラヴァ全体
A-2				オストラヴァに来てからここに慣れるのに時間がかかったけど、今はここに住んでいるのを自慢している。チヨコの中でも一番ヨーロクだと思う。気蓋で個人の特徴で、よくお酒を飲む、言葉使いも違う(音声を短く発音するので、早口に聞える)。トランの内で大声でしゃべったり、問題のある人は多いけど、都会はどこでも問題のある人はいる。今はもう慣れた。沢山の友達が出来て、悪い人ばかりじゃなくて、優しい人も多い人も沢山いると思う。
B				住み続けたい。
C				今はここに住み続けたいが、もししたら将来主人の娘の嫁をやううかもしれない。それはどうなるか分からない。
E-1				住み続けたい。本当は嫌だけど、主人の両親の家の隣の村があから、年を取った時に両親の面倒を見るために得体的に引っ越しないといけないかもしれない。
E-2				多くDubinaに住み続けるけど、もし本当に当たったとした自分の一戸建てがほしい。自分が生まれたPorubaの近くにある、自然が多いところに引っ越ししたい。
F				5年間は住み続けたい。お金が貯まらないので、車を引っこ抜いた。動物と自然が好きなので。
G				住み続けたい。前住んでいた村に比べても便利。村では買えないけど、都会はどこでも問題のある人にはいる。
H				ほか、住み続けたい。
I				はい、便利だし、トランでどこにでも行けるので満足。病院、お店も近く。
J				下の子どもが学校に上がる前(5年以内)に一軒家に引っ越していったが、自分はもとOstravaの近くの郊外に一軒家が欲しい。義理の妹は、以前Veneciaに住んでいて、すぐ地域が広がり、隣に住したくないとずっと言っていた。でも結婚して子どもが生まれたら郊外の小さな町に転居を始めたから、もうここには戻りたくないといつていて。みんなに好きだったので、ただ、自分の町のバスが通っていない(バスはあらゆる町のバスではない)。町のバスが通っているところがいい。
K				今はまだ続けたいけど、将来は一軒家か、もっと広いアパートが欲しい。それはOstrava-Jihでも良い。村でいい。村だと距離あるのが良いが、別になくてもいい。
L	居住経験の希望	103,102,35		低層の住宅に住みたい。高層はいいが、低層は人気があるので中々見つからない。今住んでいる地域のバーツは部屋数が少ないので、他の地域がいい。ここは低層住宅が並んでいて、住むのに一番いいと思う。こっちはバーツはあるけど、トラン停宿所から近く、この地域はバーツの停宿所が少ない。Dubinaに広がり、Dubinaでバス停がある。アパートは前より大きい。
C	Ostrava-Jih内の地域差			昔住んでいたDubinaと比べると、今住んでいるHrabuvkaの方があれやバーツの停宿所から近いので音はるさないけど、夜は安全な気がする。前の家は停宿所から遠くて、暗いところも通っていたので、歩くとちょっと危ない感じだ。住んでる人の世帯的な違いなどの地域差は特に感じない。
E-2				昔住んでいたDubinaと比べると、今住んでいるHrabuvkaの方があれやバーツの停宿所から近い。アパートは前より大きい。
H				以前住んでいたVyskoviceと現在住んでいるZárehelを比べると、Vyskoviceの方が坂が多くある。Zárehelの方が坂が多い。逆に、Zárehelの良いところは、サービス施設が多くて便利なところ。
K				VyskoviceとZárehelを比べると、Vyskoviceの方が建物が高く密度が高い。そこが多くて、住みやすくなっている。一方で、Zárehelの方が坂が多い。一方で、車も近くで自然が多い。
G	他の地域と比較したときのOstrava-Jih			Zárehelの方が坂が多い。逆に、Zárehelの方が坂が多い。一方で、車も近くで自然が多い。
L				Porubaはそこそこいいけど、自然が多くて子どもがいるところと思う。オストラヴァの中で一番きれいなところ。森がすぐ傍なので、空気も良い。
				これまでに住みできた地域と比べて、Ostrava-Jihが一番いい。自然が多くて、便利だから。お店も沢山あるし、医者も近く。前住んでいたFyfeldyには自然がないし、Herimanceは中心部から離れていてバスも一本しかないし、お店も少ないから不便だった。Ostrava-Jihは自然のお店も両方あるから良い。Ostrava-Jihの中でも、HrabuvkaよりもZárehelの方が自然が多くて良い。

サッカーゴール  
(ゴール前の地面も整備している)



写真 5-2 余分な土を利用した遊び場 (9)



写真 5-3 住民が作った砂場とサッカーゴール (86)

ということが指摘されている。

### 3) 子どもの遊び場

10名が家の近くの遊び場を利用した / すると語っていた。更に建物の建設時に掘った土を盛った丘でそりすべりをして遊んだ [C] (写真 5-2) という、住宅地開発時に生じた土を利用した遊び方もあつ



写真 5-4 Bělský les の中の舗道 (12)



写真 5-5 池 (6)

た。遊具付きの遊び場については十分ではないと感じている人もおり、同じ建物に住む父兄達が集まって、建物の前の広場に自分たちで砂場とサッカーゴール（木の棒を2本建てた簡易のもの）を作った [J] (写真 5-3), と語ったインタビューアもいた。近所に他に遊具がないので、天気のいい日には子どもが40人程も遊びに来るという。

### 4) 自然、緑

森 (写真 5-4) や池、川沿いの道 (写真 5-5) は、散歩 [C] [F], ジョギング [K] [L], サイクリング [C] [G] [K] [L] など、日常的に利用されていることが分かった。写真 5-5 の撮影時には、池で釣りをする人々も複数名見られた。

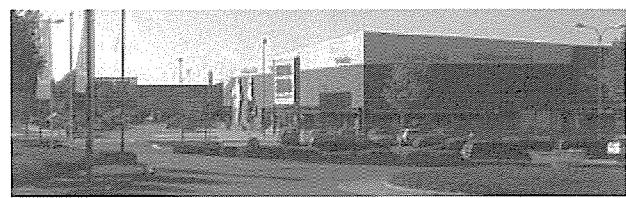


写真 5-6 ショッピングセンター (13)

Hruška 氏へのインタビューでは社会主義時代の規則によって Bělský les 周辺に中心施設を入れる計画が無くなり、現在も Ostrava-Jih 地区の中心がない、ということであったが、そのおかげで森が保存され、現在住民の憩いの場となっているともいえそうである。また、建物の周りの木など、緑が増えたこと [E-1][G] も指摘されており、開発当初からの時間経過によって植物が成長したことが考えられる。

5) スーパー、ショッピングセンター、商店街など  
どのインタビューも家から徒歩圏内にスーパーがあり、利便性は高いと考えられる。Zábřeh にはショッピングセンター（写真 5-6）があるが、90 年代に最初の店舗が出来てから、規模を拡大している [I][L] といい、インタビューの中にも利用者は多い [A-1][A-2][B][C][F][H][I][L]。Ostrava-Jih 内で市場も開かれており、利用すると答えたインタビュー [A-2] もいる。

6) 飲食店、娯楽施設など

ティーンエイジャーになると友達と喫茶店（写真 5-7）や商店街（写真 5-8）、ディスコ（写真 5-9）等に出かけたという意見 [C][D][E-2][F][I][J][L] が多く聞かれた。

7) 公共施設（病院、幼稚園、小学校など）

幼稚園、小学校が家の近くにあると答えたインタビューが複数おり [A-2][C][F][H]、図 3-2 の学校分布からも、学校施設へのアクセス性は高いと考えらえる。

8) 交通機関、施設や他地域へのアクセス性

公共交通機関の利便性を評価したインタビューが [G] いた他、車で他地域に行く際にも便利な立地だと評価されていた [F]。トラン、バスは昔と変わらないという話 [A-2] があり、交通システムは開発当初から引き継がれていると考えらえる。

9) 地域のイベント

学校や教会での子供のためのイベント [B][I] やビールのお祭り [L] など広い年代に対してイベントが行われており、近年イベントは増えてきた様子 [L] である。



写真 5-7 喫茶店  
(104)



写真 5-8 商店街  
Špalíček (38)



写真 5-9 ディスコ  
(57)

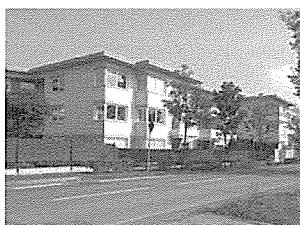


写真 5-10 新築住宅の例1(44)

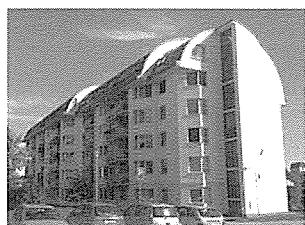


写真 5-11 新築住宅の例 2(105)

10) 近所付き合い

以前に比べて近所付き合いは希薄になったという意見 [A-1][K] や、後から引っ越ししてきた人についてはよく知らない [E-1]、という意見がある一方、同じ建物に住んでいる人とは仲がよく、都会なのに村のような人間関係があると語るインタビュー [F] もいた。

11) 空気

空気が悪いという点が 4 名から指摘され、オストラヴァの大気汚染については、まだ対策が十分ではない感じている人も多いようである。

12) 建物、道路全般

建物に色が塗られたことを評価する意見 [B][D][G][L] が聞かれた。道路の整備も行われているようである [C][F][J]。

13) 治安

ここ数年で、ホームレスや、貧しい人のための寮が増えたという意見が、複数のインタビュー [F][G][H][I][J] から聞かれ、重要な問題として捉えられていると感じた。

14) Ostrava-Jih の中で好きなところ

Bělský les という森を挙げたのは 6 名、自然に関係のある発言をしたのは 8 名と、自然に対する評価が非常に高いといえる。

15) Ostrava-Jih の外

学校や職場が Ostrava-Jih 地区の外にあった / あるインタビューからは、レストランや娯楽施設などについても Ostrava-Jih 地区外に出かけている、という意見 [C][D][E][F] が聞かれた。

16) 居住継続の希望

Ostrava-Jih 地区内で住み続けたいか、もっと田舎へ引っ越したいかのどちらかであった。もっと都会に住みたいと答えたインタビューはいなかった。また、Ostrava-Jih 地区の中でも高層よりも低層住宅に住みたい、と答えたインタビュー [L] もいた。また、近年 Ostrava-Jih 地区内やその周辺に新築が建てられている（写真 5-10、写真 5-11）が、Ostrava-Jih 地区のパネル住宅物件がオストラヴァ中心部や Poruba の住宅と比べて比較的安価であるのに対し、新築物件の販売額は非常に高額となっている [L] ようである。

17) Ostrava-Jih 内の地域差

Ostrava-Jih 地区内の別地域への引っ越しを経験したインタビューが 7 名いたが、各地域に対する印象はそれぞれ異なり、各地域に対する特定の印象は無いようである。ただし、犯罪のイメージがある [L]、（住宅は）社会主義時代の最後の時期だったので、あまり良くなかった [E-1] との意見があった Dubina に対しては、参考文献 9 でも住環境の悪さが指摘されており、Ostrava-Jih 地区の中でも問題の多い地域、として認識されていると考え

らえる。

#### 18) 他の地域と比較したときの Ostrava-Jih

他地域と比べて自然が多いという点が 2 名のインタビュー [G][L] から聞かれた。

### 6. 住民自らが地域の価値について考える機会を創出する試み（プラハ市）

これまでの研究では、細やかな情報を拾い上げるため、一対一、あるいは一対二の少人数でのインタビューを行ってきた。このことは発言の背景を明らかにしながら一人ひとりの意見を引き出すことができる点で有効であるが、話を聞くことが出来る人数には限りがある。そこで、更に多くの住民を対象に自らが地域の価値について考える機会を創出するため、プラハ 11 区役所担当者の協力を得て、区が行う地域イベント「The days of Prague 11」(2015 年 9 月 17 日 -20 日) の一部として、地域の良いところを記入してもらうガリバーマップ作成イベントを実施した。

#### 6.1 イベントの概要

プラハ 11 区主催の地域イベント「The days of Prague 11」において、9 月 17 日（木）午後、18 日（金）午後、19 日（土）終日、の 3 日間、地域の良いところ、好きなところ、思い出の場所などをカードに記入し、地図に貼りつけてもらうガリバーマップ作成イベントを実施した。会場はダンスや歌が披露されるメインステージの傍で、ガリバーマップ以外に地域の開発当初から現在までの航空写真や開発当初の計画図、これまでの筆者の研究成果をまとめたポスター、日本の団地紹介のポスター展示を行った（写真 6-1）。

ガリバーマップについては、基本的には口頭で一人一人に説明しなくても済むように、できるだけシンプルかつ分かりやすいイベントとした。地図への書き込みの手順は予めポスターにして張り出しておき、記入されたコメントはイベント中の空き時間とイベント終了後に通訳者を介して日本語に訳した。

#### 6.2 開催結果と集まったコメントの概要

コメントカードは、3 日間で約 400 枚（落書き、判読不能なカードも含む）が記入された。子どもたちのグループや若い家族が多かったため、コメントには年齢的な偏りがあるものの、公園、森、小学校、ショッピングセンター、

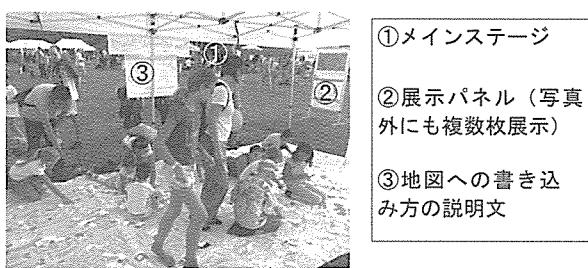


写真 6-1 プラハ 11 区でのイベントの様子

プールなどに人気が集まつた。また、開発当初と現在の航空写真を見比べる住民の姿が見られたり、ガリバーマップを見に来た住民同士で会話が生まれたりしていたことから、プラハ 11 区住民が自分の暮らす地域について改めて考えたり、他者と意見を交わす機会を提供できたのではないかと考えている。今後、Ostrava-Jih 地区でも、インタビュー以外の住民の方々の意見を集める試みを検討したい。

### 7. 得られた知見

本研究を通じて得られた知見と今後の課題を以下にまとめる。

#### 7.1 Ostrava-Jih 地区の価値

Ostrava-Jih 地区住民へのインタビューでは、住宅地周辺に川や森がある一方で、地区内には商業施設や公共施設が揃っているという、田舎的要素と都会的要素の双方に対して魅力を感じており、そのどちらの要素も有していることは大きなメリットであると考えられる。また、家賃や住宅価格が安いこと<sup>注6)</sup> も居住を決定する上で重要なポイントとなっており、経済面でも利点があるといえる。更に、行きつけの居酒屋やレストラン、家の前の遊び場等、日常生活の一部として思い入れの深い場所も指摘され、それらはインタビューそれぞれにとっての地域の魅力となっていた。

#### 7.2 プラハ 11 区イジュニームニエストと Ostrava-Jih 地区での住民インタビュー結果から得られた知見

今回の Ostrava-Jih 地区住民へのインタビューで得られた意見とプラハ 11 区イジュニームニエストでの住民インタビューで得られた意見を合わせて考えると、住宅地の周りにある自然を高く評価していること、以前に比べて緑が増えたと感じていること、他地域へのアクセシビリティの良さ、家から学校までの近さ、他地域と比べた時の家賃の安さは共通して評価されていた点であり、これらはチェコにおいて社会主义時代に形成された大規模住宅開発地に共通する特色である可能性が考えられる。特にこの中でも住宅地周辺の自然、交通利便性、家と学校の近さについては開発当初から継続しており、社会主义時代の計画による利点が引き継がれていると考えられる。

プラハの事例との違いが感じられた点は、貧しい人のための寮やホームレスの問題がここ数年で急増したこと、空気が汚れていることを指摘する人が多数いたことである。これらの問題は Ostrava-Jih 地区内だけで解決できる問題ではないため、状況の改善には Ostrava-Jih 地区内だけに留まらない議論も必要である。

また、プラハ 11 区の事例では区役所が公園の整備に力を入れていた<sup>文4)</sup> のに対し、Ostrava-Jih 地区の事例では、

公園整備の予定は数年前からあるものの実現していない、遊び場が少ない、という意見が聞かれたことから、行政の取り組みが公共空間の整備状況に違いを生んでいる可能性がある。しかし、Ostrava-Jih 地区ではそのような状況下で、同じ住宅棟に住む住民が協力して手作りの砂場やサッカーゴールを作るなど、自分たち自身で遊具不足を改善しようとする試みが見られたことは興味深い。

更に、オストラヴァ市が社会主义時代に発展した工業都市であることから、都市の開発計画時には Ostrava-Jih 開発と工業の発展が相互に影響を与えたと考えられ、インタビューの中で工業都市であることに関連する町の捉え方が見られるのではないかと期待された。しかし、オストラヴァ市内の炭鉱は約 20 年前（1994 年）までに全てが閉鎖されており、今回の住民インタビューの中にも工業関連の職についている人はいなかった。また、インタビューにおいて Ostrava-Jih での生活を語る中で、オストラヴァ市の産業を意識した発言も少なく、都市の主要産業が日常生活と深く結びついている、といった特徴は見られなかった。

### 7.3 今後の課題

社会主義時代の住宅開発地に関する情報が限られている中で、プラハ市とオストラヴァ市の二事例それぞれの地域で得られた資料や情報から、相互に不足している情報を補うことができた一方で、調査を重ねる度に新たな資料が見つかるため、未だに手元にある資料を十分に読み込めていない状況である。今後、これらの貴重な資料を分析することによって、社会主義時代の開発当初の計画の意図や実現しなかった計画案を明らかにし、それらがどのように住宅開発地の現状に繋がっているのかを読み解きたい。

また、チェコにおいて、路上で住民の方に声を掛けるなどの知人を介さないインタビューは一般的ではなく、断られる可能性が非常に高いと予測された。そのため本研究におけるインタビューは、研究関係者の知り合いを紹介してもらう形で実現したものであるが、それ故に社会的立場が中間層から大きく外れるインタビューはおらず、インタビューの中で複数回指摘された社会的立場の弱い人々の声を拾うことは出来なかった。Ostrava-Jih 地区に点在する一部の住宅が、所得が低く通常の家賃を払うことができない人々に住まいを提供している一方で、中流階級以上の居住者は、このような建物が近年急増したことに戸惑いを感じている。しかし、Ostrava-Jih 地区の将来を考える上で、社会的立場の異なる居住者それぞれの声を広く集め、地域の価値を共有することは、非常に重要な意義があろう。今後 Ostrava-Jih 地区で住民の意見を集める試みを行う際には、居住者の社会的立場の多様性についても考慮したい。

### 謝辞

通訳、翻訳者として大井美和さん、林瑠智恵さん、Veronika abbasová さん、Veronika Meravá さん、Denis Birjukov さんからご協力をいただきました。また、資料調査においてはプラハ市アーカイブの Jan Schwaller 氏、IPR PRAHA の Martina Koukalová 氏からご協力をいただきました。住民インタビュー調査では Jana Harvišová さん、プラハ 11 区でのイベントではプラハ 11 区役所の Jan Topinka 氏、Alžběta Tichá 氏からご協力をいただきました。関係者の皆様、インタビューに応じて下さった Ostrava-Jih 住民の皆様に心より感謝申し上げます。

### <注>

- 1) オストラヴァ市アーカイブに保管された地図のデジタルデータ三枚より作成。地図に年号の記載がなかったため、正確な時期は不明であるが、開発の順序を把握することは可能である。
- 2) パネル住宅の分類とタイプ別の特色については文献 8 に詳しい。
- 3) 調査は Google map の利用と現地踏査によって行った。なお、着色されていない部分は公共施設、商業施設、緑地等住宅以外の地域に該当する。
- 4) インタビューは 2014 年 9 月 2 日、市役所担当者 3 名（チェコ語 - 英語通訳者 1 名を含む）に対して行った。
- 5) インタビューは 2015 年 3 月 17 日、チェコ語 - 日本語通訳者 1 名を介して行った。
- 6) インタビューアの発言による。参考文献 10 の 91 頁においてオストラヴァ市とその周辺の平均土地価格に関するデータが掲載されているが、Ostrava-Jih 地区についてはデータ無しとなっている。なお、最も高額なのは Poruba (1981 CZK/m<sup>2</sup>) である。

### <参考文献>

- 1) Zarecor, K. E., and Špačková, E.: Czech Paneláks are Disappearing, but the Housing Estates Remain, Architektura & urbanizmus, vol. 46, no. 3-4, p. 293, 2012.
- 2) Temelová, J., et al.: Housing Estates in the Czech Republic after Socialism: Various Trajectories and Inner Differentiations, Urban Studies, vol. 48, no. 9, 2011.
- 3) 田中由乃, 神吉紀世子: 社会主義時代に開発された住宅地のプラハ市行政による再生施策の特色 - プラハ市行政とプラハ 11, 13 区行政の関係性の考察を通じて -, 日本都市計画学会, Vol. 48, No. 3, 2013
- 4) 田中由乃, 神吉紀世子: プラハ市において社会主義時代に形成された住宅開発地の再価値化に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 80 卷, 第 709 号, 2015.3
- 5) 田中由乃, 神吉紀世子: オストラヴァ市において社会主義時代に形成されたプレハブ集合住宅開発地内の複雑化 - チェコ共和国オストラヴァ市 Ostrava-Jih を事例として -, 日本建築学会, 東海大学, 2015.9
- 6) Kallabová, E. & Bilek, J.: The Historical Background and Current Situation of Mass (Industrial) Forms of Housing in the Ostrava Region (Czech Republic), Moravian Geographical Reports, Vol. 14, No. 2, pp. 27-42., 2006
- 7) Zarecor, K. M., Špačková, E.: Czech Paneláks are Disappearing, but the Housing Estates Remain, Architektura & urbanizmus, vol. 46, no. 3-4, pp. 288-301, 2012. において, Kubečková-Skulínová, D., Vady a poruchy panelové bytové výstavby, Habilitation Project Summary. Ostrava, Vysoká škola báňská - Technické univerzita Ostrava, 2003. から引用されている。
- 8) Kubečková-Skulínová, D.: Bytová výstavba v Ostravě v druhé polovině minulého století, vady a poruchy: Monografie, VŠB-TU Ostrava, Fakulta stavební, 2008
- 9) Rumpel, P., & Slach, O.: Governance of shrinkage of the city of ostrava, European Science and Art Publishing, 2012
- 10) Hruška, L., Kukuljač, P. a kol.: Socioekonomický Atlas Ostravy, Accendo-Centrum pro vědu a výzkum, o.p.s., 2011
- Zarecor, K. M.: Socialist Neighborhoods after Socialism: The Past, Present, and Future of Postwar Housing in the Czech Republic, East European Politics and Societies, Volume 26, Number 3, pp. 486-509, 2012
- Rumpel, P. et al.: Urban shrinkage in Ostrava, Czech Republic, D4 Comparable research report, 2010